

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

平成29年 4月～ 6月実績

平成29年 7月～ 9月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100.0%）
6. 調査対象期間 平成29年4～6月期実績及び平成29年7～9月期見通し
7. 調査時点 平成29年6月1日（木）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.5%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

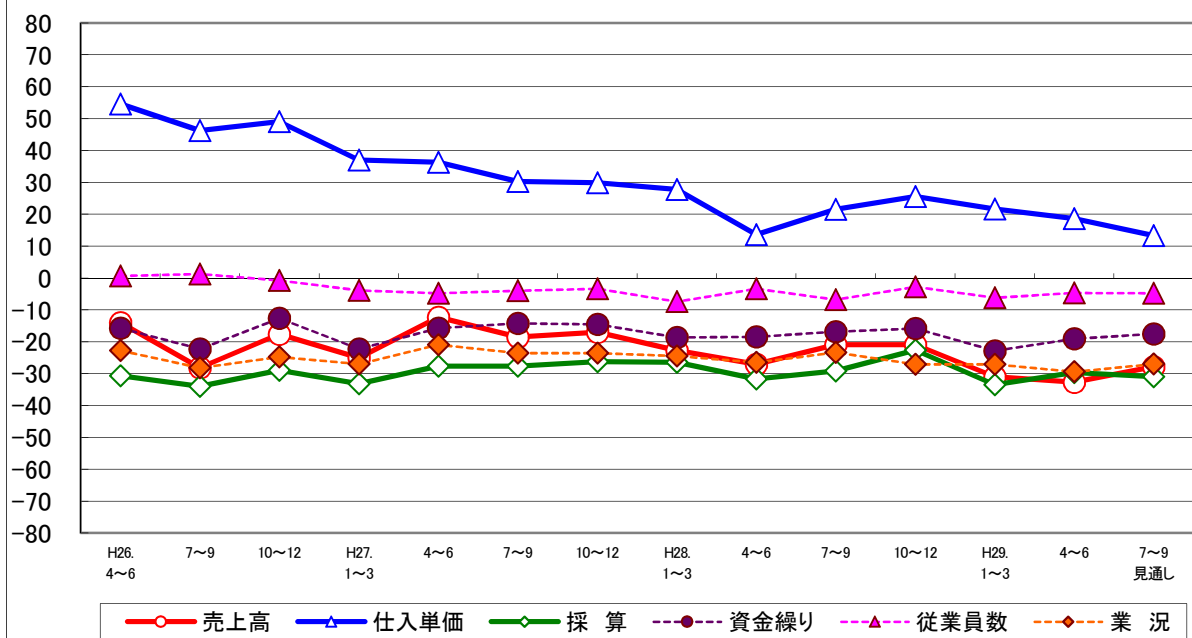
$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所長 教授 南保勝氏

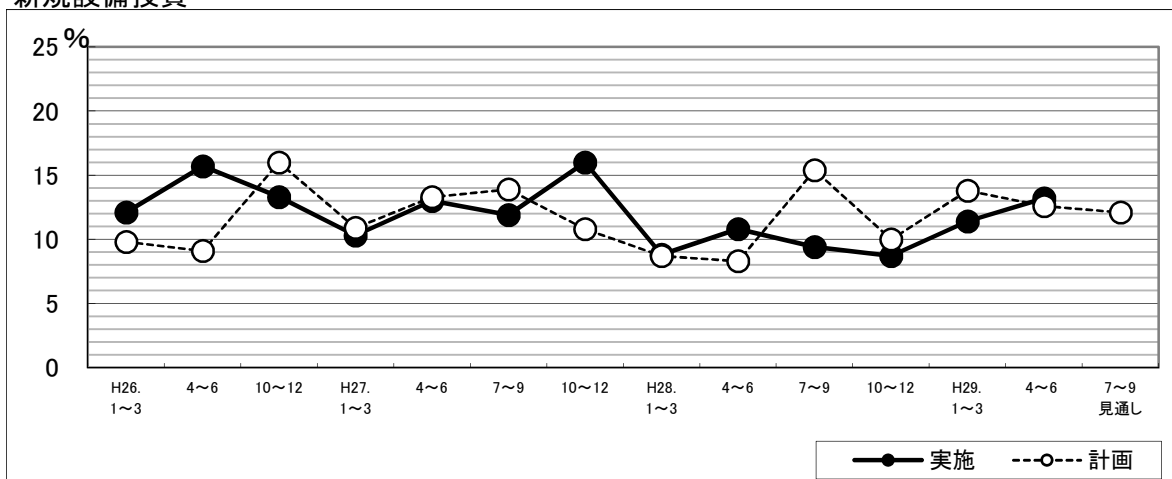
全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向推移(前年同期比:DI値)

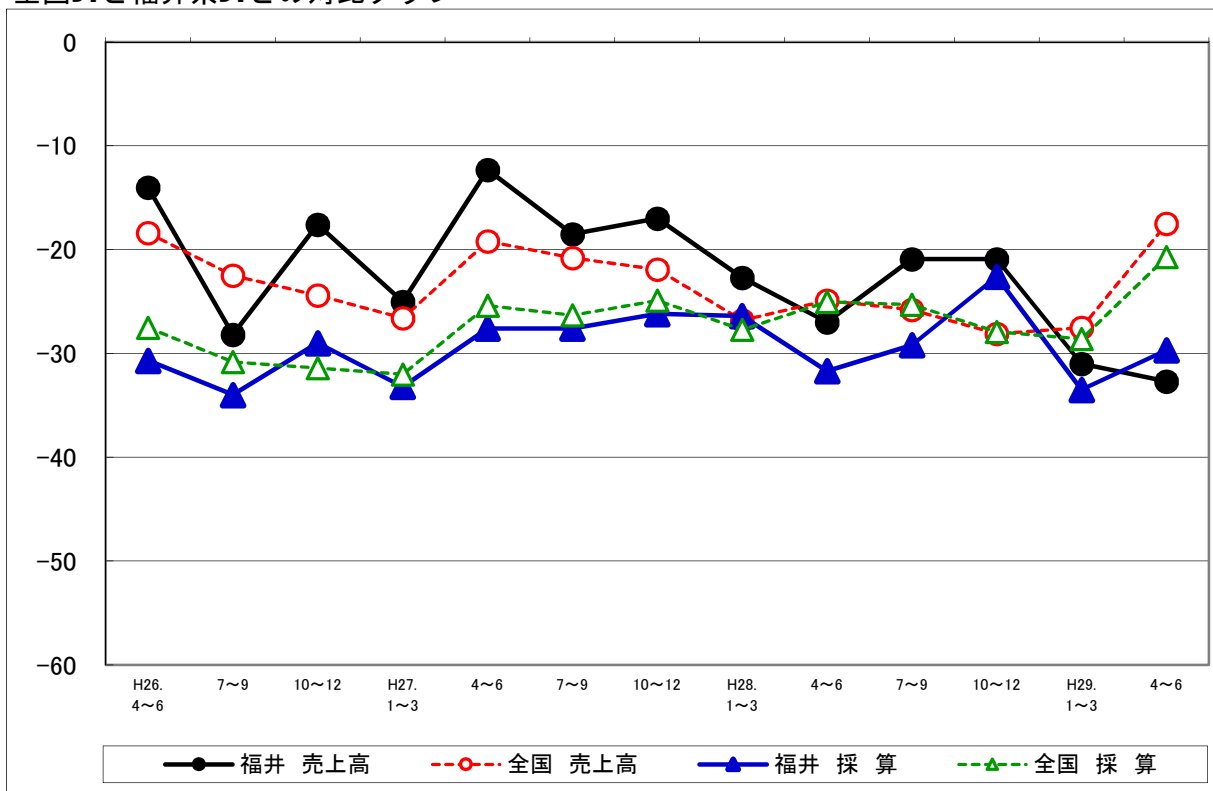
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H26.4~6	▲ 14.0	54.6	▲ 30.7	▲ 15.7	0.7	▲ 22.7
7~9	▲ 28.2	46.2	▲ 34.0	▲ 22.2	1.3	▲ 28.2
10~12	▲ 17.6	49.1	▲ 29.0	▲ 12.6	▲ 0.7	▲ 24.7
H27.1~3	▲ 25.0	37.0	▲ 33.2	▲ 22.2	▲ 3.9	▲ 26.9
4~6	▲ 12.3	36.3	▲ 27.6	▲ 15.7	▲ 4.8	▲ 20.9
7~9	▲ 18.5	30.3	▲ 27.6	▲ 14.2	▲ 4.0	▲ 23.5
10~12	▲ 17.0	29.9	▲ 26.2	▲ 14.5	▲ 3.4	▲ 23.5
H28.1~3	▲ 22.7	27.8	▲ 26.4	▲ 18.6	▲ 7.4	▲ 24.4
4~6	▲ 27.0	13.6	▲ 31.7	▲ 18.4	▲ 3.4	▲ 26.4
7~9	▲ 20.9	21.6	▲ 29.2	▲ 16.8	▲ 6.8	▲ 23.3
10~12	▲ 20.9	25.6	▲ 22.6	▲ 15.8	▲ 2.7	▲ 27.0
H29.1~3	▲ 31.0	21.7	▲ 33.5	▲ 22.8	▲ 6.2	▲ 27.0
4~6	▲ 32.7	18.6	▲ 29.7	▲ 19.0	▲ 4.7	▲ 29.4
7~9見通し	▲ 27.8	13.3	▲ 31.0	▲ 17.5	▲ 4.8	▲ 26.9



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

平成29年4～6月期の福井県経済を概観すると、需要面では、定番・中級品の動きに鈍化がみられるものの特売品の動きが良く、また、新車販売や家電品販売が持ち直しているほか、堅調な旅行取扱高の増加や温泉宿泊客数が高水準で推移していることなどから着実に持ち直している。供給面でも、企業の生産活動で主力の電子部品・デバイスや輸送機械等が引き続き高操業を維持しているほか、化学も品目によるバラつきはあるものの概ね堅調な生産動向を維持。また、地場産業でも、繊維工業や眼鏡枠工業の一部で弱含んでいるものの概ね堅調を維持。以上を総括すれば、この時期の県内経済は、全体として緩やかな回復基調で推移したといえる。

こうしたなか、今期（H29年4～6月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち4項目で改善を示した。ちなみに、改善した項目は、仕入単価（逆指数）（前期21.7→今期18.6）、採算（前期▲33.5→今期▲29.7）、資金繰り（前期▲22.8→今期▲19.0）、従業員数（前期▲6.2→今期▲4.7）。悪化した項目は、売上高（前期▲31.0→今期▲32.7）、業況（前期▲27.0→今期▲29.4）となっている。こうした状況から、県内中小企業の景況感も一部で懸念は残るものの、概ね改善傾向にあることがわかる。

また、先行き（H29年7～9月期）については、採算、従業員数を除く4項目で改善予測となっており、現状維持の横ばいで推移することがうかがえる。

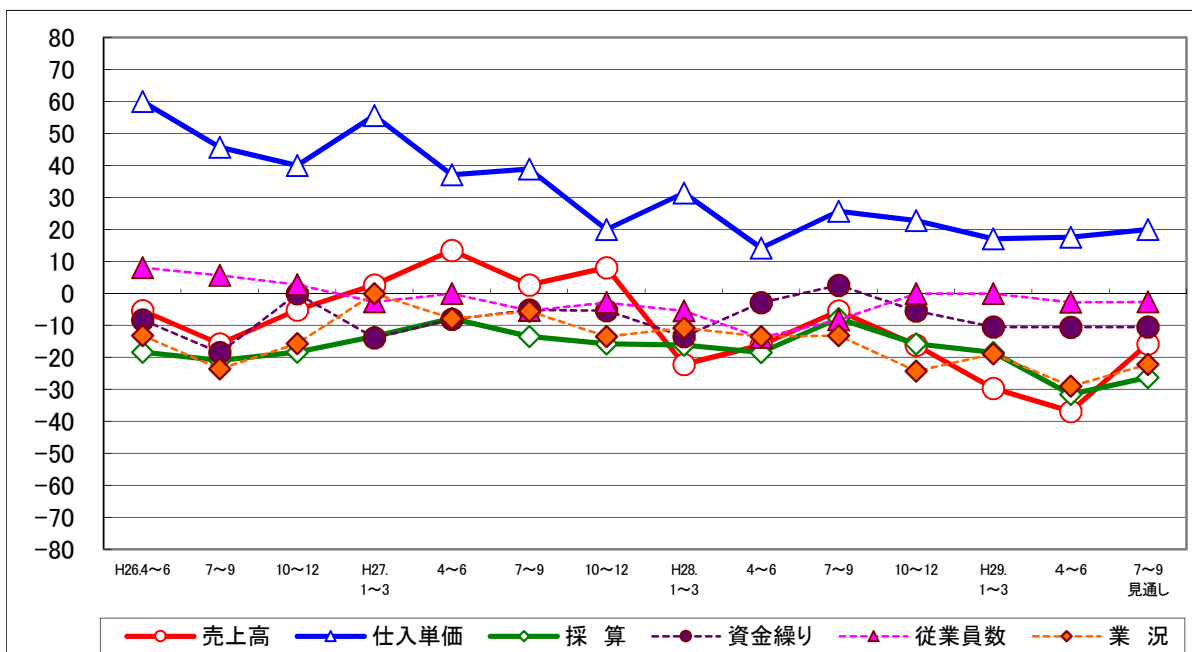
一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、両項目ともにその水準は全国を下回っており、福井県の景況感は回復基調とはいえ全国に比べやや劣ることがうかがえる。

そのほか、今期の新規設備投資については、何らかの設備投資を計画している企業ウエイトの12.6%に対して実施した企業ウエイトが13.2%となり、まずまずの投資意欲がうかがえた。また、先行き（H29年7～9月期）については、計画が12.1%とほぼ横ばいの推移を示しており、今期と同水準の投資動向が見込まれる。

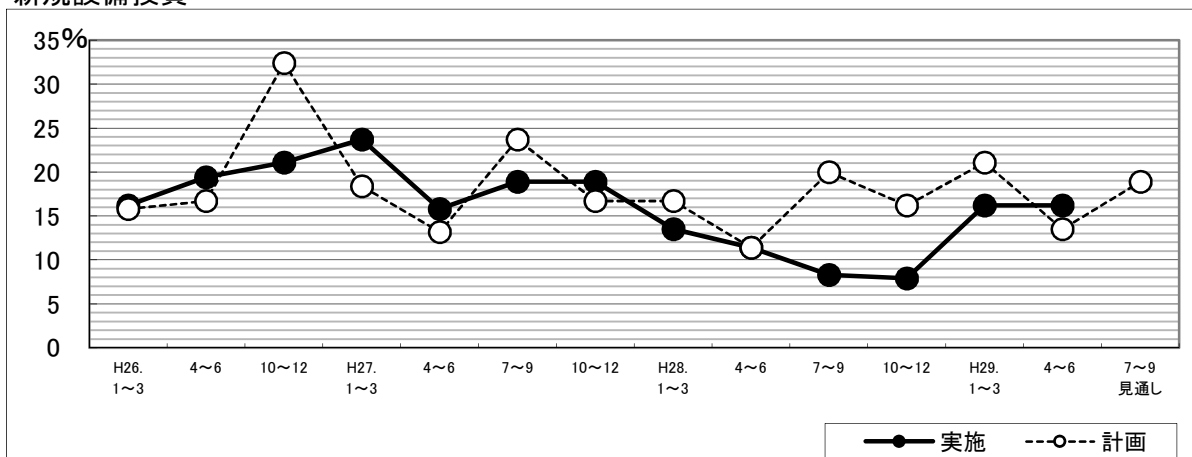
製造業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

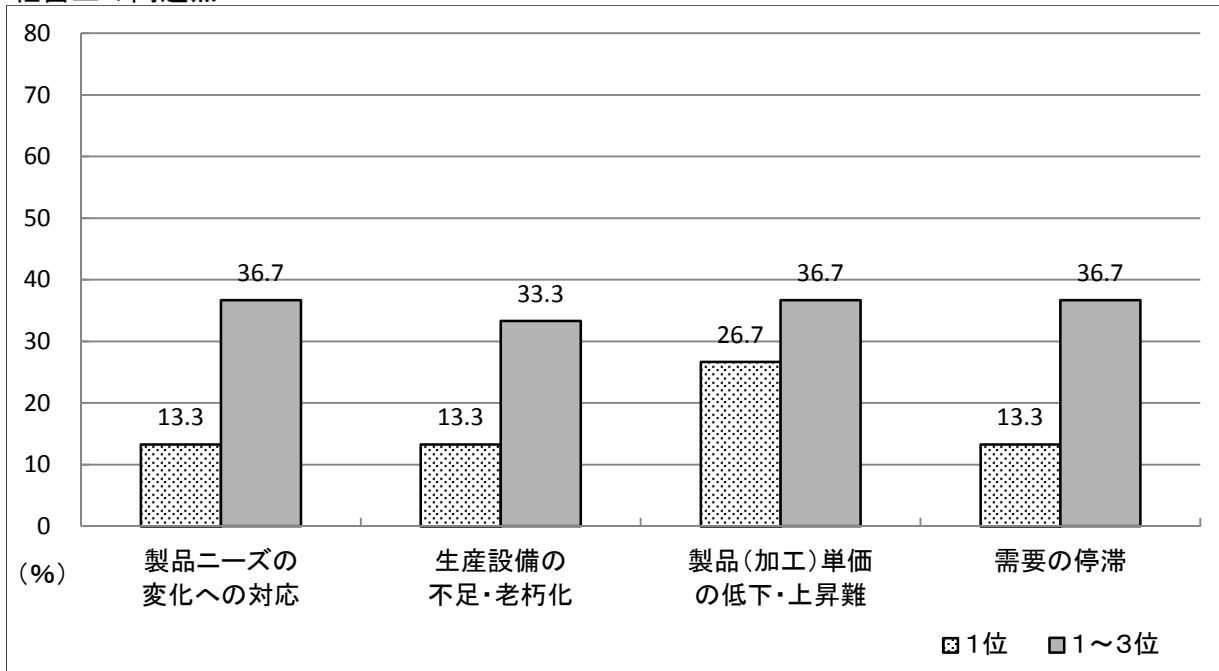
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H26.4~6	▲ 5.4	60.0	▲ 18.4	▲ 8.3	8.1	▲ 13.2
7~9	▲ 15.8	45.7	▲ 21.0	▲ 18.5	5.7	▲ 23.6
10~12	▲ 5.2	40.0	▲ 18.4	0.0	2.8	▲ 15.7
H27.1~3	2.7	55.6	▲ 13.5	▲ 13.9	▲ 2.7	0.0
4~6	13.5	37.1	▲ 7.9	▲ 8.1	0.0	▲ 7.9
7~9	2.7	38.9	▲ 13.5	▲ 5.2	▲ 5.4	▲ 5.6
10~12	8.1	20.0	▲ 15.8	▲ 5.4	▲ 2.9	▲ 13.5
H28.1~3	▲ 22.2	31.4	▲ 16.2	▲ 13.5	▲ 5.5	▲ 10.8
4~6	▲ 16.2	14.2	▲ 18.5	▲ 2.9	▲ 13.8	▲ 13.5
7~9	▲ 5.5	25.7	▲ 7.9	2.6	▲ 8.3	▲ 13.2
10~12	▲ 16.2	22.8	▲ 15.8	▲ 5.5	0.0	▲ 24.3
H29.1~3	▲ 29.7	17.1	▲ 18.5	▲ 10.5	0.0	▲ 18.9
4~6	▲ 36.9	17.6	▲ 31.6	▲ 10.6	▲ 2.8	▲ 29.0
7~9見通し	▲ 15.8	20.0	▲ 26.3	▲ 10.5	▲ 2.7	▲ 22.2



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・売上単価減少、全体数も落ちている。そのような中新規顧客獲得に向けて営業が少し実を結んできた。
- ・県外都市部の問屋の売上が増加しているが、県内観光地は人ではあるものの売上に結びつかない。今後は国体や新幹線福井開業、恐竜関連商品を投入していく。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、電子部品・デバイスがスマートフォン向けを中心に拡大しているほか、輸送機械も自動車変速用部品などで緩やかに回復している。また、化学も医薬品を中心に、プラスチックも建築資材、産業資材などで緩やかに持ち直している。そのほか、地場産業では繊維工業が非衣料向けで持ち直しつつあるほか、眼鏡枠工業も低位横ばいの推移となっており、全体では持ち直している。

ただ、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目全てが悪化傾向となるなど、現状の景況に対する認識に乖離が見られた。この結果から、県内の製造業では優勢な大手中心の外発型産業に対し中小ローカル産業の劣勢といった構図が見て取れる。ちなみに、各項目の動きをみると、売上高が前期▲29.7→今期▲36.9へ、仕入単価（逆指標）が前期17.1→今期17.6へ、採算が前期▲18.5→▲31.6へ、資金繰りが前期▲10.5→今期▲10.6へ、従業員数が前期0.0→今期▲2.8へ、業況が前期▲18.9→今期▲29.0へと変化している。また、先行き（H29年7-9月期）については、仕入単価（逆指標）を除いた5項目で改善予測となっている。

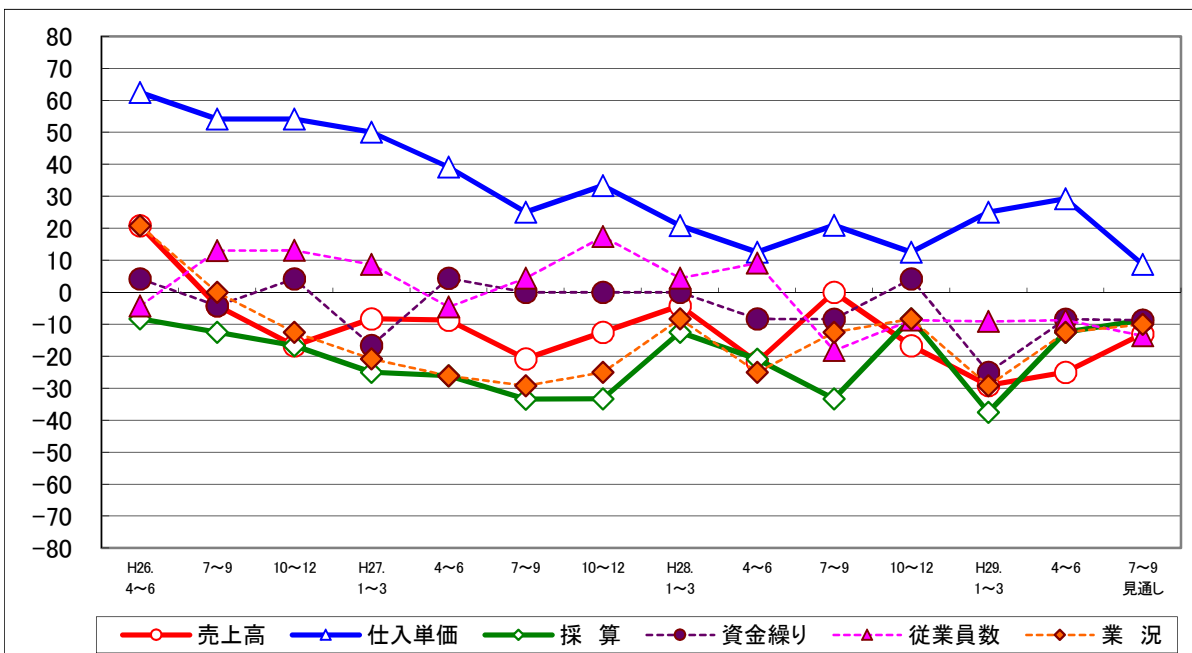
一方、新規設備投資の状況については、計画の13.5%に対し実施が16.2%と回復傾向を示したほか、先行き（H29年7-9月期）についても投資予定企業が18.5%となっており、投資意欲の持ち直しが予測できる。

最後に、経営上の問題点については、「製品（加工）単価の低下・上昇難」（1位に挙げた企業26.7%、1位～3位までに挙げた企業36.7%）への指摘が最多となったほか、「製品ニーズの変化への対応」や「生産設備の不足、老朽化」、「需要の停滞」への指定も比較的多い。そのほか、「新規の中規模顧客獲得が出来てきた」、「今後は国体や新幹線福井開業、恐竜関連商品を投入していく」などの前向きな声も聞かれた。

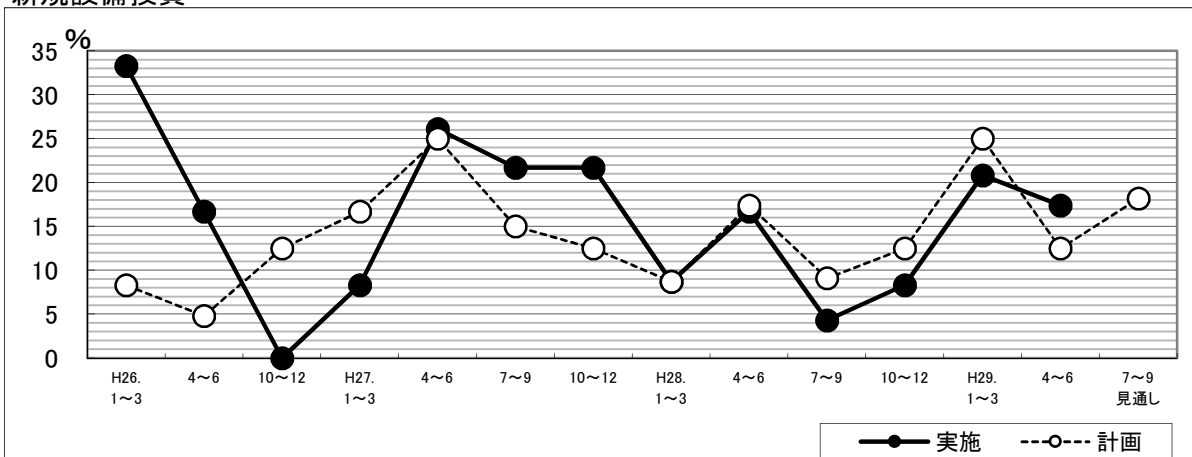
建設業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

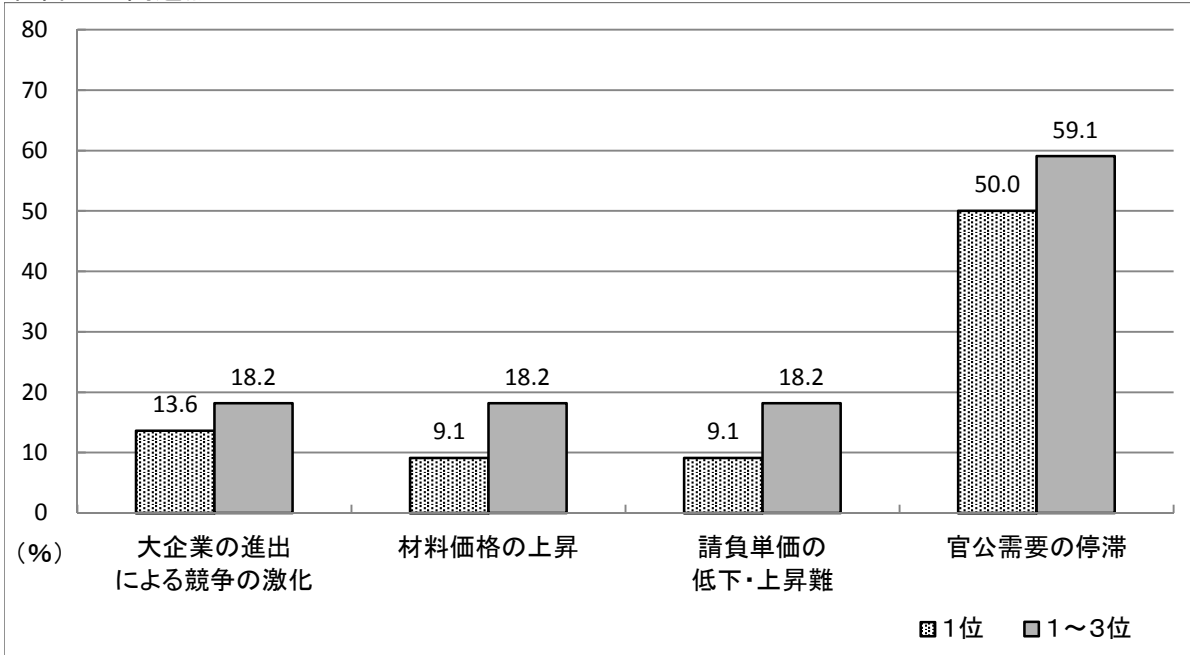
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H26.4~6	20.8	62.5	▲ 8.3	4.2	▲ 4.3	20.8
7~9	▲ 4.2	54.2	▲ 12.5	▲ 4.2	13.0	0.0
10~12	▲ 16.7	54.2	▲ 16.7	4.2	13.1	▲ 12.5
H27.1~3	▲ 8.3	50.0	▲ 25.0	▲ 16.6	8.7	▲ 20.8
4~6	▲ 8.7	39.1	▲ 26.1	4.4	▲ 4.6	▲ 26.1
7~9	▲ 20.8	25.0	▲ 33.4	0.0	4.4	▲ 29.2
10~12	▲ 12.5	33.3	▲ 33.3	0.0	17.4	▲ 25.0
H28.1~3	▲ 4.2	20.8	▲ 12.5	0.0	4.4	▲ 8.3
4~6	▲ 21.8	12.5	▲ 20.9	▲ 8.3	9.1	▲ 25.0
7~9	0.0	20.9	▲ 33.3	▲ 8.4	▲ 18.2	▲ 12.5
10~12	▲ 16.7	12.5	▲ 8.3	4.2	▲ 8.7	▲ 8.3
H29.1~3	▲ 29.1	25.0	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 9.1	▲ 29.2
4~6	▲ 25.0	29.2	▲ 12.5	▲ 8.4	▲ 8.7	▲ 12.5
7~9見通し	▲ 13.0	8.7	▲ 8.7	▲ 8.7	▲ 13.6	▲ 10.0



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・新規事業拡大をめざさないと先がない。自社ブランドの製品を造り上げ、販路の開拓をしていく。
- ・官公庁発注工事が町で継続して出ており、県発注工事の減少分をカバーしている。長期的に見て、官・民両方の発注量の減少が想定される。

建設業の景況

福井県内における平成29年度（29年4月－29年5月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で473億4百万円の前年同期比1.2%増、発注件数は同881件の同7.0%増となり、発注額、件数ともに前年度を上回っている。これを主な発注者別でみると、独立行政法人等の関連工事で183億73百万円の同4.1%増、県関連工事等で121億72百万円の同41.8%増となったものの、主力の市町村関連工事（122億56百万円の同10.2%減）や、国家関連工事（36億43百万円の同34.3%減）などでは前年度実績を下回っている。

一方、住宅投資については、平成29年4月－5月までの2か月累計で、前年同期比19.0%減の602戸となった。ちなみに、利用関係別では主力の持家が前年同期比10.4%減の431戸、貸家が同51.1%減の109戸となっている。

こうした中で今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、仕入単価（逆指数）を除く5項目で改善傾向を示している。ちなみに、各項目のDI値をみると、売上高（前期▲29.1→今期▲25.0）、仕入単価（逆指数）が前期25.0→今期29.2、採算が前期▲37.5→今期▲12.5、資金繰りが前期▲25.0→今期▲8.4、従業員数が前期▲9.1→今期▲8.7、業況が前期▲29.2→今期▲12.5となっている。また、先行き（H29年7－9月期）については、資金繰り、従業員数を除く4項目で改善予測となった。

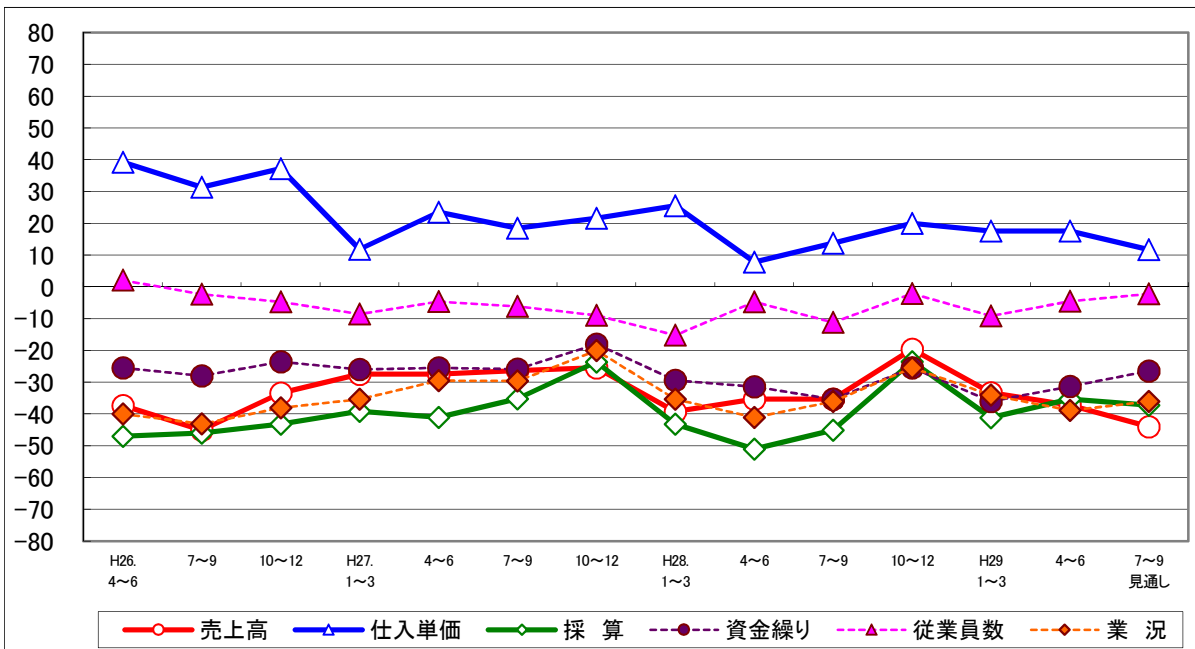
一方、今期の新規設備投資については、計画した企業12.5%に対し実施した企業が17.4%となっているほか、先行き（H29年7－9月期）についても投資計画を持つ企業が18.2%となるなど、安定した投資マインドを示している。

最後に、経営上の問題点については、「官公需要の停滞」への指摘が極めて高く、1位に挙げた企業ウエイト50.0%、1位～3位までに挙げた企業59.1%に達している。また、個別の見解として「新規事業拡大を目指さないと先がない、自社ブランドの製品を造り上げや販路の開拓をしていく」、「長期的に見て、官・民両方の発注量の減少が想定される」などの声が聞かれた。

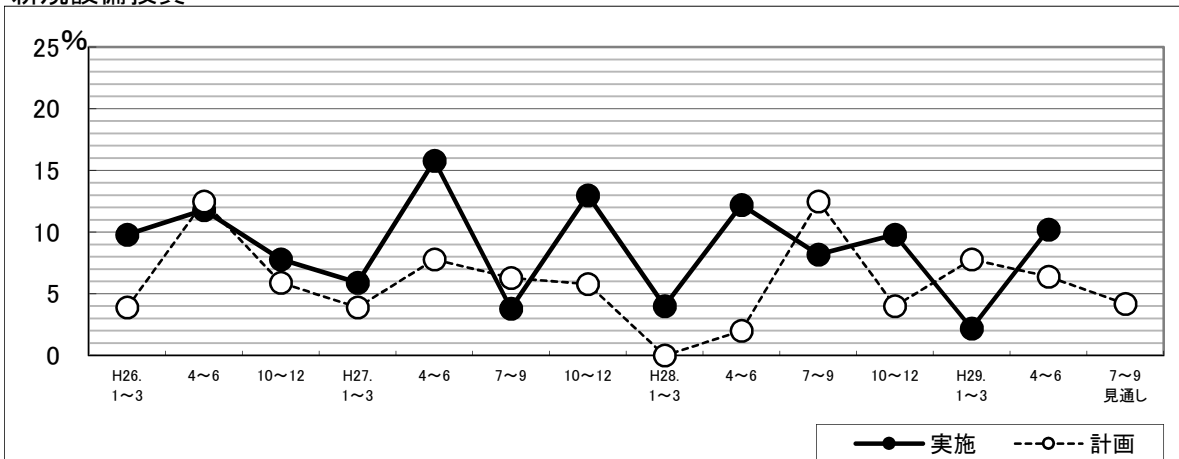
小売業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

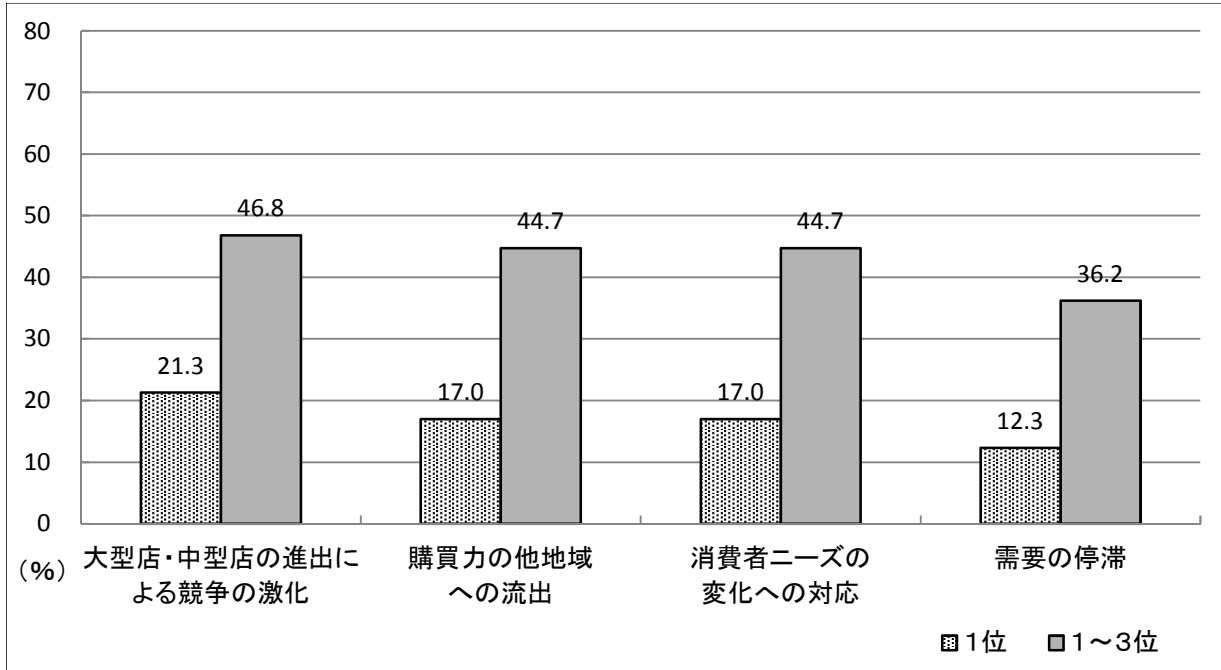
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H26.4~6	▲ 37.3	39.2	▲ 47.0	▲ 25.5	2.1	▲ 40.0
7~9	▲ 45.1	31.4	▲ 46.0	▲ 28.0	▲ 2.3	▲ 43.1
10~12	▲ 33.4	37.2	▲ 43.2	▲ 23.5	▲ 4.7	▲ 38.0
H27.1~3	▲ 27.5	11.8	▲ 39.2	▲ 26.0	▲ 8.5	▲ 35.3
4~6	▲ 27.5	23.5	▲ 41.1	▲ 25.5	▲ 4.6	▲ 29.5
7~9	▲ 26.4	18.5	▲ 35.2	▲ 25.9	▲ 6.1	▲ 29.6
10~12	▲ 25.5	21.6	▲ 23.6	▲ 18.0	▲ 8.9	▲ 20.0
H28.1~3	▲ 39.3	25.5	▲ 43.2	▲ 29.4	▲ 15.2	▲ 35.3
4~6	▲ 35.3	7.8	▲ 51.0	▲ 31.4	▲ 4.7	▲ 41.1
7~9	▲ 35.3	13.7	▲ 45.1	▲ 35.3	▲ 11.1	▲ 36.0
10~12	▲ 19.6	20.0	▲ 23.5	▲ 25.5	▲ 2.1	▲ 25.5
H29.1~3	▲ 33.3	17.6	▲ 41.2	▲ 36.0	▲ 9.1	▲ 34.0
4~6	▲ 37.2	17.6	▲ 35.3	▲ 31.3	▲ 4.5	▲ 38.8
7~9見通し	▲ 44.0	11.7	▲ 37.2	▲ 26.5	▲ 2.2	▲ 36.0



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・インターネットに困る。購買者の知識が増え対応に勉強中。小規模企業に恩恵が受けるのはもう少し時間が必要なのかも。全体にやや上向きは感じます。
- ・大型店の出店より価格競争が激しくなっており、今後の展開に不安を感じている。

小売業の景況

最近の小売商況をみると、百貨店・スーパー等では弱めの動きとなっているものの、コンビニエンスストア販売は惣菜等を中心に、ドラッグストア販売は飲食料品を中心に堅調となっているほか、ホームセンター販売は前年並み、家電大型専門店販売はテレビ等に動きがみられることなどから緩やかに持ち直しつつある。ちなみに、近畿経済産業局が公表する大型店売上高（百貨店+スーパー、全店ベース）の状況は、平成29年1月-5月累計で、30,647百万円の前年同期比0.7%減であった。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中、売上高、業況の2項目で悪化、仕入単価（逆指数）が横ばい、改善傾向は採算、資金繰り、従業員数の3項目となった。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲33.3→今期▲37.2、仕入単価（逆指数）が前期17.6→今期17.6、採算が前期▲41.2→今期▲35.3、資金繰りが前期▲36.0→今期▲31.3、従業員数が前期▲9.1→▲4.5、業況が前期▲34.0→今期▲38.8となっている。また、先行き（H29年7-9月期）については、売上高、採算の2項目で悪化予測となったものの、仕入単価（逆指数）、資金繰り、従業員数、業況の4項目は改善予測となっている。

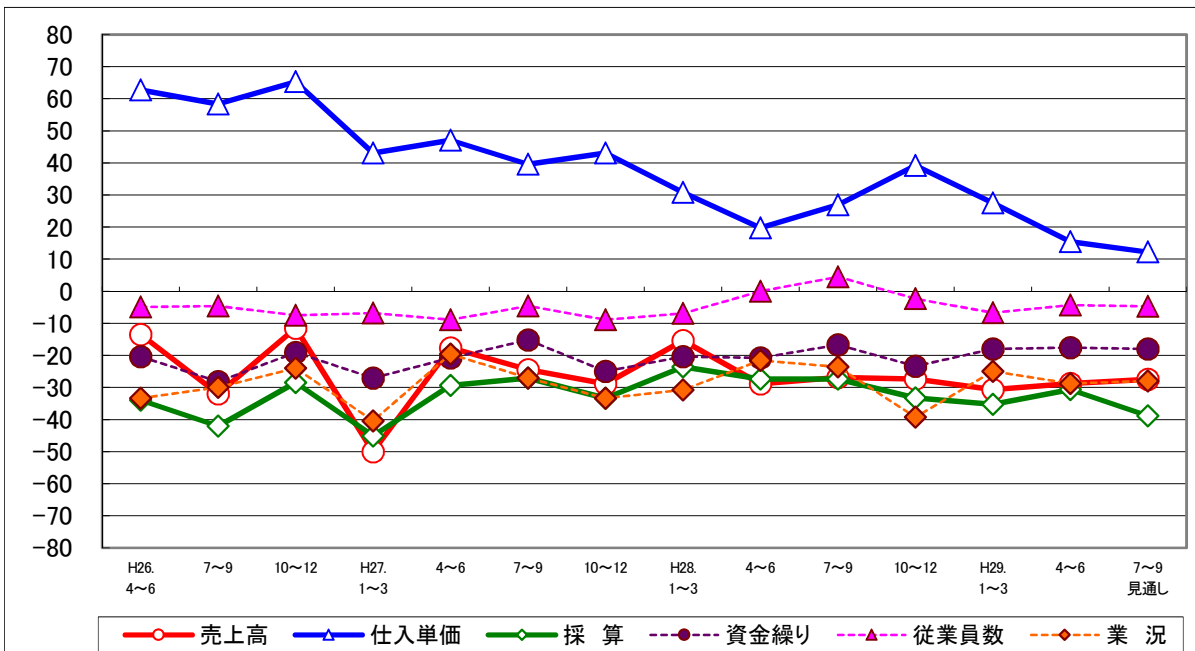
一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の6.4%に対し実施が10.2%と堅調な動きとなった。ただ、先行き（H29年7-9月期）については、投資を考える企業が4.2%にとどまり、企業の投資意欲は精彩を欠く展開となる可能性が強い。

最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「大型店・中型店の進出による競争の激化」（1位に挙げた企業ウエイト21.3%、1位~3位までに挙げた企業46.8%）への指摘で、次いで「購買力の他地域への流出」、「消費者ニーズの変化への対応」（1位に挙げた企業ウエイト17.0%、1位~3位までに挙げた企業44.7%）が同率で続いている。そのほか、個別の見解として「大型店の出店により価格競争が激しくなっており、今後の展開に不安を感じている」、「インターネットの普及により消費者の商品知識が増え、対応に追われている」などの声が聞かれた。

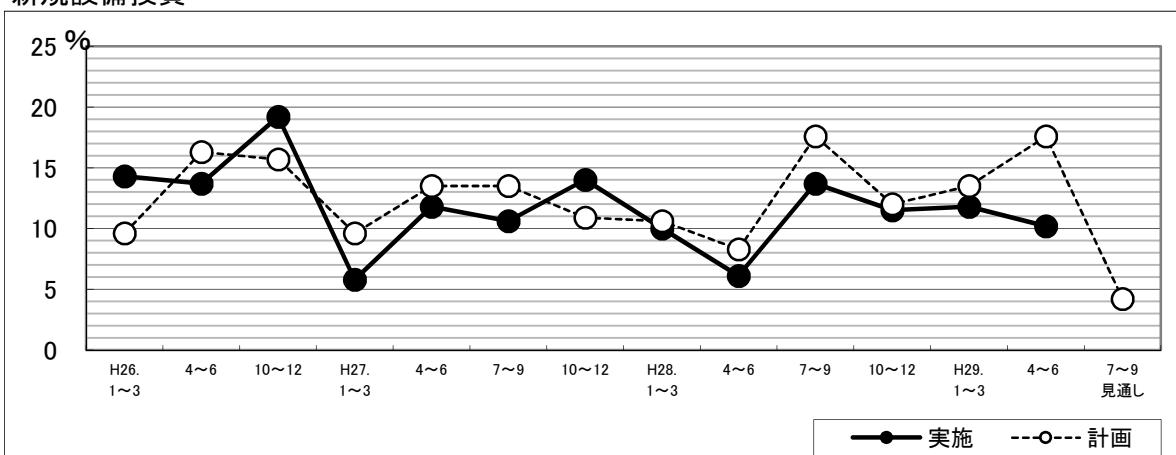
サービス業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

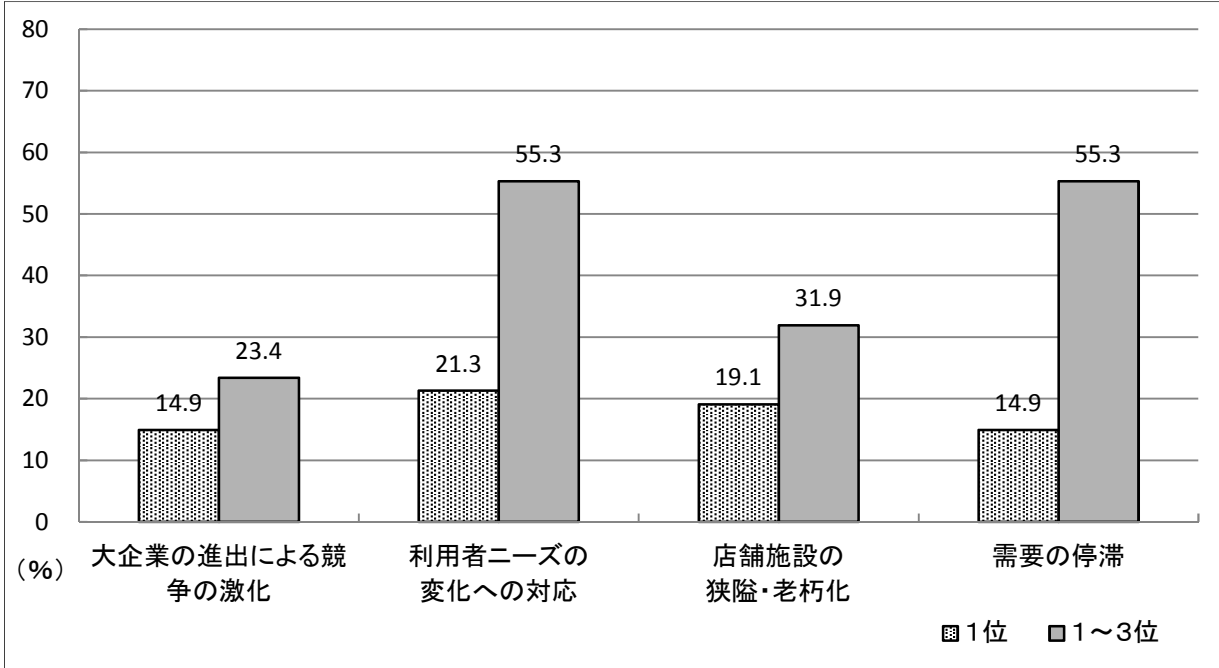
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H26.4~6	▲ 13.5	62.7	▲ 34.0	▲ 20.4	▲ 4.9	▲ 33.4
7~9	▲ 32.0	58.3	▲ 42.0	▲ 28.2	▲ 4.6	▲ 30.0
10~12	▲ 11.5	65.3	▲ 28.5	▲ 19.1	▲ 7.5	▲ 24.0
H27.1~3	▲ 50.0	43.1	▲ 45.1	▲ 27.1	▲ 6.8	▲ 40.4
4~6	▲ 17.7	47.1	▲ 29.4	▲ 20.8	▲ 8.9	▲ 19.6
7~9	▲ 24.5	39.6	▲ 27.1	▲ 15.2	▲ 4.6	▲ 27.1
10~12	▲ 28.9	43.1	▲ 33.4	▲ 25.0	▲ 8.9	▲ 33.4
H28.1~3	▲ 15.4	30.8	▲ 23.6	▲ 20.4	▲ 6.9	▲ 30.8
4~6	▲ 28.9	19.7	▲ 27.4	▲ 20.8	0.0	▲ 21.6
7~9	▲ 26.9	26.9	▲ 27.4	▲ 16.7	4.5	▲ 23.6
10~12	▲ 27.4	39.2	▲ 33.3	▲ 23.4	▲ 2.3	▲ 39.2
H29.1~3	▲ 30.7	27.5	▲ 35.3	▲ 18.0	▲ 6.7	▲ 25.0
4~6	▲ 28.8	15.4	▲ 30.7	▲ 17.6	▲ 4.3	▲ 28.8
7~9見通し	▲ 27.5	12.2	▲ 38.8	▲ 18.0	▲ 4.7	▲ 28.0



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・顧客数の減少の一言につきる。新規客を求める際の対策が考えつかない。
- ・お客様の高齢化により、来客回数の減少若しくは、亡くなられたりして、利用料金が低下してきている。高齢化によりUターン来店して頂ける時の対応を模索すべきである。

サービス業の景況






総務省が毎月実施する「サービス産業動向調査」によると、全国における平成29年4月のサービス関連産業売上高は30.4兆円で前年同月比2.9%増と、6か月連続の増加となった。産業大分類別の動向をみると、増加した産業は「サービス業（他に分類されないもの）」、「宿泊業、飲食サービス業」などを中心に全産業で増加した。また、サービス産業の従業者数は、3,031万人。前年同月比0.9%の増加となっており、増加した産業は「情報通信業」、「学術研究、専門・技術サービス業」など8産業、減少した産業は「生活関連サービス業、娯楽業」であった。





























































こうした中、今回の景況調査をみると、福井県の場合、DI値6項目中、業況を除く5項目で改善傾向を示している。ちなみに、項目別では、売上高が前期▲30.7→今期▲28.8、仕入単価（逆指数）が前期27.5→今期15.4、採算が前期▲35.3→今期▲30.7、資金繰りが前期▲18.0→今期▲17.6、従業員数が前期▲6.7→今期▲4.3、業況が前期▲25.0→今期▲28.8となっている。こうした状況から、県内のサービス業でも、全国同様、業況に改善傾向が出ていることがうかがえる。また、先行き（H29年7-9月期）については、採算、資金繰り、従業員数の3項目で悪化予測となっており、今しばらく現状維持の状況が続くことも予想される。

一方、新規設備投資については、計画17.6%に対し実施が10.2%にとどまったほか、先行き（H29年7-9月期）についても何らかの設備投資を計画する企業は4.2%にとどまるなど、低調な投資マインドが続くことが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「利用者ニーズの変化への対応」（1位に挙げた企業ウエイト21.3%、1位～3位までに挙げた企業55.3%）への指摘が最も多い。また、「店舗施設の狭隘・老朽化」への指摘も比較的多く、1位に挙げた企業ウエイトが19.1%に達している。そのほか、個別企業の見解としては「新規顧客を求める際の対策が考えつかない」、「顧客の高齢化により、利用料金が低下してきている」などの悲観的な指摘も目立っている。

全国・福井景気動向 平成29年4月～6月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 17.5	27.7	▲ 20.7	▲ 13.3	▲ 3.2	▲ 18.0
	製造業						
	DI値	▲ 8.2	33.4	▲ 13.4	▲ 10.2	▲ 0.8	▲ 8.7
	建設業						
	DI値	▲ 8.2	29.3	▲ 11.4	▲ 5.2	▲ 3.5	▲ 9.6
	小売業						
	DI値	▲ 31.0	21.5	▲ 30.0	▲ 19.5	▲ 4.1	▲ 30.5
福井	サービス業						
	DI値	▲ 16.4	28.8	▲ 21.5	▲ 13.5	▲ 3.7	▲ 17.2
	全体						
	DI値	▲ 32.7	18.6	▲ 29.7	▲ 19.0	▲ 4.7	▲ 29.4
	製造業						
	DI値	▲ 36.9	17.6	▲ 31.6	▲ 10.6	▲ 2.8	▲ 29.0
	建設業						
	DI値	▲ 25.0	29.2	▲ 12.5	▲ 8.4	▲ 8.7	▲ 12.5
福井	小売業						
	DI値	▲ 37.2	17.6	▲ 35.3	▲ 31.3	▲ 4.5	▲ 38.8
	サービス業						
	DI値	▲ 28.8	15.4	▲ 30.7	▲ 17.6	▲ 4.3	▲ 28.8

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

